

宮城県石巻市の中学校での防災デイキャンプに参加！

～ 災害関連死を防ぐ TKB（トイレ・キッチン・ベッド）の対応を学ぶ ～

日本損害保険協会東北支部(委員長：菊田 政寛・損害保険ジャパン株式会社 執行役員東北エリア本部長)では、8 月 30 日（日）に河北新報社防災ワークショップ「むすび塾(※1)」と石巻市立湊中学校の共催で行われた防災デイキャンプに、参加・運営協力を行いました。

当日は、同校の生徒や地域住民ら約 40 名が参加し、運営協力を行った団体等から、災害関連死を防ぐために重要な TKB（トイレ・キッチン・ベッド）について学びました。

<T（トイレ）：石巻赤十字病院>

同校が東日本大震災で避難所となった時の様子にも言及し、トイレ環境を整えることの重要性を学ぶとともに、実物の簡易トイレを用いて使い方に触れました。また、速やかに医療機関を受診できない場合に備え、バンダナを用いた応急手当の方法などについても体験しました。

<K（キッチン）：元仙台白百合女子大学准教授 氏家先生>

停電により電化製品が使用できなくなった場合を想定し、カセットコンロとアイラップ（耐熱性ポリ袋）を用いてご飯を炊いたり、炭火を起こし、冷蔵庫にある旬の野菜や常温保存可能な魚肉ソーセージを焼いて食べたりと、防災食を体験しました。

<B（ベッド）：一般社団法人石巻震災伝承の会>

床に直接寝ることの健康リスクについて学び、実際に段ボールベッドを組み立てたり、エアーマットを膨らませたりして、周囲の視線を遮ることができること、土ぼこりを吸い込みにくいこと、寝心地などを確かめました。

また、協会東北支部の及川事務局長から、地震災害と豪雨災害の場合を想定し、被害を少しでも小さくするためにはどのような備えが必要か、「そんぼデジタル・マイ・タイムライン(※2)」をはじめとした協会の啓発ツールを用いて説明を行いました。

その他、非常階段の体験や石巻版クロスロードの実施など、午前中から夕方まで、1 日を通した盛りだくさんのプログラムとなりましたが、実物を用いた体験や実演を通して、座学では学ぶことができない貴重な経験をすることができました。

当支部では、今後も関係各所と連携し、防災・減災の取り組みを推進してまいります。



屋上への非常階段を体験



簡易トイレの使い方を学ぶ



自分たちで作った防災食を実食



段ボールベッド作り



石巻版クロスロードの実施



及川事務局長からの防災講話

(※1) むすび塾

河北新報社が主催しているワークショップ。東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、宮城県内外で地震、津波の際の避難の手法などを地域住民と一緒に考え、行動を後押しする取り組みを行っています。2012年からスタートし、今回で通算 129 回目。

(※2) そんぽデジタル・マイ・タイムライン https://sonpo-bosai.jp/sonpo_digital_my_timeline/

洪水のような進行型災害が発生した際に、いつ、何をするのかを時系列で整理した個人の防災計画「マイ・タイムライン」をパソコンやタブレットで作成できる Web コンテンツ。国土交通省、一般財団法人河川情報センターの監修・協力を得て当協会が制作しています。